

海と地球温暖化～IPCC 報告書から

花輪 公雄 博士

(東北大学大学院理学研究科長・理学部長 教授)

「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」第 1 作業部会は、2007 年 2 月に第 4 次評価報告書 (AR4) を公表し、「人為起源の温室効果気体の増加により、20 世紀半ば以降の世界平均気温の上昇のほとんどがもたらされた可能性が非常に高い。」と宣言した。本講演では、この AR4 報告書をもとに、温室効果の仕組み、温室効果気体、IPCC の活動、今回の評価報告書の特徴、そしてその概要などを、特に見出された海洋の変動や地球温暖化における海洋の役割などに着目し、概説する。

IPCC とは？

IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change : 気候変動に関する政府間パネル) は、人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的として、1988 年に世界気象機関 (WMO) と国連環境計画 (UNEP) により設立された組織です。IPCC は、議長、副議長、三つの作業部会及び温室効果ガス目録に関するタスクフォース (特別専門委員会) により構成され、それぞれの任務は以下の通りです。

第 1 作業部会 : 気候システム及び気候変化の自然科学的根拠についての評価

第 2 作業部会 : 気候変化に対する社会経済及び自然システムの脆弱性、気候変化がもたらす好影響・悪影響、並びに気候変化への適応の選択についての評価

第 3 作業部会 : 温室効果ガスの排出削減など気候変化の緩和の選択についての評価

温室効果ガス目録に関するタスクフォース : 温室効果ガスの国別排出目録作成手法の策定、普及および改定

